

ほっと人権

—第4号—

平成18年9月30日～10月1日

学校支援部 人権教育担当

東京で、ファシリテーター養成講座を受講してきました。

1 研修会

【研修会】ERICファシリテーター養成講座

チャレンジコース「人権教育を学校全体で」

【日程】平成18年9月30日（土）、10月1日（日）

【会場】ERIC国際理解教育センター

（東京都北区滝野川1-93-5 コスモ西巣鴨105）

【参加者】16名

2 研修内容

— 人権教育を学校全体で —

1. 共通基盤づくり
2. 人権としての教育
3. 人権を通しての教育
4. 人権についての教育
5. 人権のための教育
6. 行動計画づくりとふりかえり

セッション2

- ・市町村人口ラインナップ
- ・人権としての教育といえるもの
いえないもの
- ・近代学校教育制度とは
- ・近代産業科学技術社会への取組

セッション3

- ・わたしを育てたことば
- ・一次のことば 二次のことば CALP
- ・ふりかえり

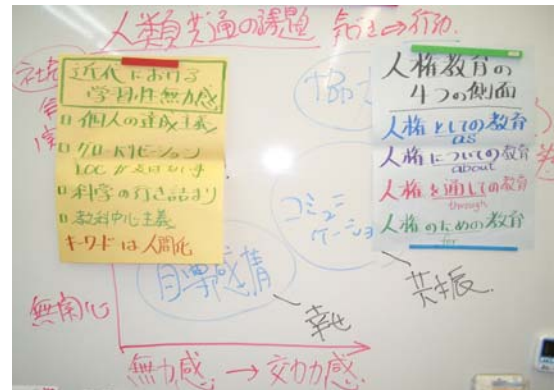
※ CALP

cognitive academic language proficiency

認知的学問的言語熟達《教科学習に関わる言語能力》

ワイワイ盛りあがったのはこれ。

日常使っている子どものことばを、絵に描いた子どもの身体に書き込んで、大人のことばを服にして着せました。



セッション1

- ・参加者の根っこはどこ
- ・2日間への期待：咲かせたい花は？
- ・国際理解教育：気づきから行動へ
- ・教室の中の世界
- ・今の世界は〇〇である
- ・社会的有利性の配分が正義
- ・無力感から効力感へ
- ・近代の学習性無力感
- ・人権教育4つの側面

高知県では大切にしたい4つの視点として提起しています。

1. すべての人が等しく学習機会を得る
2. 人権や人権問題について学ぶ
3. 人権が大切にされる環境で学ぶ
4. 人権が大切にされる社会をめざす

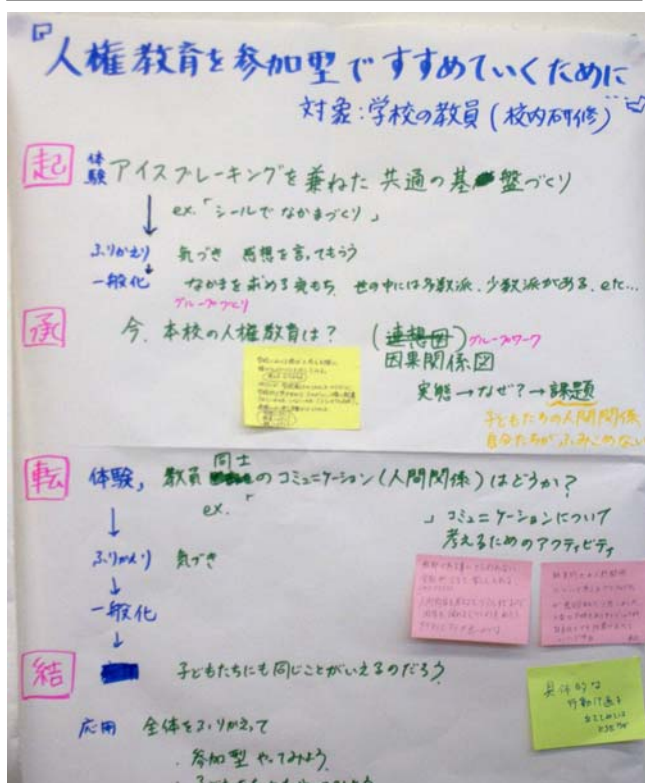
Let's じんけん（改訂版）より



短時間での意見交換に、まとまらない頭をフル回転！ 事前にテキストを読んで、勉強しておくべきだったと反省しきり。

セッション4

- ・一言自己紹介
- ・1日目のふりかえり
- ・あいさつゲーム
- ・自分たちが受けてきた人権教育の内容と方法
- ・なぜ参加型で人権教育を学ぶのか
- ・「人権について学ぶ」とは〇〇だ
- ・テキストを読み込む



セッション6

- ・からだほぐし
- ・「接続詞で倫理トレーニング」でふりかえり
- ・人権教育の4つの側面の構造
- ・行動計画づくりの枠組みの紹介
- ・修了証の授与

一次のことば
現実的な生活場面の中で
具体的な状況と関連して用いられ
文脈に支えられてその意味が相手に
伝わるもの。「特定の親しい人」が相手。

二次のことば (言葉)

ある事象が 現実の場面と離れずに表現
される ことば、不特定多数者に向けて 抽象化
された聞き手と想定。
一次のことばは「話しことば」であるが、そこに
「書きことば」が加わってくる。音声であることも
あれば、文字であることもある。

CALP *cognitive academic language proficiency* 認知学問的
言語熟達

「教科学習に関わる言語能力」
「教科学習の基礎となる思考、言語による
自己表現力」などを含むもの。

セッション5

- ・セッション4からのグループ作業
- ・全体共有
- ・仲間づくり：オープンマーケット方式
- ・プログラムづくり
- ・評価の視点づくり
- ・プログラム発表
- ・アドボカシー：自分たちの声を伝えよう
- ・フィードバックと共有

セッション5での人権教育を推進するためのプログラムづくりは、グループごとに熱が入り、実践につなげたいものができあがっていました。

参加型の研修では、多角的な視点からの意見交換を通して学習できることがメリットだと思いました。また、参加者の所属や生活している地域が異なるほど、魅力が増します。

「人権教育を学校全体で」とは、本来当然であ

りながら、果たされていない課題です。多くの視点から意見交換が行われましたが、印象に残ったキーワードは、「行動化」でした。「行動化」を、誰かに求める前に「自分がすること・・・」を問い直しながら、常に、自分の立ち位置を確認していこうと思いました。